

夏目漱石

江戸牛込（現在の東京都新宿区）で生れる。本名は夏目金之助。明治末期から大正初期にかけ活躍した近代日本を代表する小説家。東京帝国大学英文学科卒業後、愛媛県松山市尋常中学校に英語科教師として赴任。その時の経験が後の『坊ちゃん』の執筆に繋がったのは有名。他に代表作として『我輩は猫である』『倫敦塔』『三四郎』など多数。

今月の祭日

文化の日（三日） 本来は「明治節（明治天皇の「生誕日）」。自由と平和を愛し、文化を進める日。  
勤労感謝の日（二十三日） 本来は「新嘗祭（五穀豊穣に感謝する祭り）」の日。勤労を尊び、収穫・生産を祝い感謝する日。

やろうと思わなければ

横に寝た箸を

たて  
豎にする事も出来ん

なつめ そうせき  
夏目漱石

はくしゅ/かしわで  
神道知識への誘ひ「拍手」

拍手とは、神様を拝むとき、両手を合わせて音を立てる作法です。音を立てる際、二回、四回、八回と作法により鳴らす数に違いがありますが一般の神社祭式では二拝二拍手一拝と二回打つことで知られています。三回以下の拍手は、短拍手、短手と呼び、四回以上手を打つものを、長拍手、長手などと呼びます。また神酒をいただく際に一回だけ手を鳴らしますが、これは礼手と言われる作法です。また伊勢神宮のように八回鳴らすものもあります。これは八開手（やびらで）と言い古くから最も重い拍手の作法

と伝わっています。その他にも神葬祭など葬儀の場では拍手を打つ際に音を立てないようにします。これを忍手（しのびで）と言います。本来、拍手で音を立てる理由は、喜びや歓喜の気持ちを表すためといえます。そのため、故人を悼み偲ぶときに音を出さずに忍手を打ちます。『魏志倭人伝』には、邪馬台国の風習として、倭人は貴人に対して手を打って敬意を表したと記されています。神様や貴い人に相対したときに喜びを表し拍手を打つ作法は、日本の古い伝統です。

